

整理番号	愛土 1	歯長峠の仏像構造線							
災害種別	水害・治水	地震・津波	土砂災害	渇水・利水					
場 所	愛媛県宇和島市吉田町・西予市宇和町（歯長峠付近）								
見所・アクセス	仏像構造線の両側の地層が見所、西予市宇和町の下川から歯長峠方面へ向かい、歯長トンネルを抜けてすぐ右折すれば見ることができます。								
写真・図	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真 1</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真 2</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真 3</p> </div> </div>								
解説文	<p>愛媛県宇和島市吉田町・西予市宇和町の歯長峠付近には、仏像構造線の両側の地層（露頭は観察できない）が見えます。四国の仏像構造線は、北側の三宝山帯の石灰岩卓越層と南側の四万十帯の砂岩卓越層との境界であり、前者が後者の上に衝上しています。</p> <p>徳島大学村田明広教授が詳しく四国の地盤 88 箇所 49 番で、写真 2、3 の資料のように紹介されています。</p>								
得られる教訓	歯長峠付近の仏像構造線で、三宝山帯が四万十帯の上に衝上していることを教えています。								
教訓分類	被害防止	準備	災害対応	復旧・復興	自助	共助	公助	ハード	ソフト
時代	江戸時代以前	江戸時代	明治・大正	昭和 30 年代まで	昭和 60 年代まで	平成以降			

整理番号	愛土2	沢渡地すべり							
災害種別	水害・治水	地震・津波	土砂災害			渇水・利水			
場 所	愛媛県上浮穴郡久万高原町沢渡								
見所・アクセス	愛媛県における御荷鉾緑色岩地域の大規模地すべりとその対策工事を見ることができます。 国道33号を久万高原町から高知方面へ行き、「道の駅 みかわ」から車で2分走ったところにあります。								
写真・図	 写真1		 写真2		 写真3				
解説文	<p>仁淀川上流の景勝地の御三戸獄（みみどだけ）の約1km下流の左岸に位置する愛媛県久万高原町沢渡には、御荷鉾緑色岩地域の大規模地すべりがあります。仁淀川を挟む国道33号の対岸になります。</p> <p>香川大学工学部 長谷川修一教授は、詳しく四国の地盤88箇所53番-2の中で、写真2、3の資料のように紹介しています。</p>								
得られる教訓	愛媛県久万高原町沢渡に、御荷鉾緑色岩地域の大規模地すべりがあることを教えています。								
教訓分類	被害防止	準備	災害対応	復旧・復興	自助	共助	公助	ハード	ソフト
時代	江戸時代以前	江戸時代	明治・大正	昭和30年代まで	昭和60年代まで	平成以降			

整理番号	愛土 3	竜神を祀った祠（言い伝えの大崩壊物語）							
災害種別	水害・治水	地震・津波	土砂災害			渇水・利水			
場 所	愛媛県東温市川内町松瀬川音田								
見所・アクセス	この地区には今から約 220 年前に発生した土石流災害が大崩壊物語として語り継がれています。その場所の近くに、竜神を祀った祠があります。祠の場所は、松山自動車道川内 IC から北東に 327 号線を約 6km 行った所です。								
写真・図	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真 1</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真 2</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真 3</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真 4</p> </div> </div>								
解説文	<p>愛媛県東温市川内町松瀬川音田では、今から約 220 年前の天明一寛政年代（1790 年前後）に土石流が発生したことを地元で竜神を祀った祠（言い伝えの大崩壊物語）により語り継がれています。</p> <p>松山自動車道で松山から高松に向かうと、桜三里パーキングエリアを越えてしばらくして左手（北側）に皿ヶ森（標高 634m）が見えてきます。この付近を中央構造線が通っており、たいへん脆い岩質となっています。</p> <p>昔、この地域を襲った豪雨により皿ヶ森の南斜面で大崩壊が発生しました。崩壊した土砂は土石流となって下流の音田の集落を飲み込み、本谷川をせき止めました。その場所は、音田大崩壊と天然ダム災害状況図として四国山地砂防事務所の四国山地の土砂災害（2004）の中で場所が具体的に示されています。また、四国防災八十八話の 66 話の大崩壊物語（おおつえものがたり）として紹介しています。さらに香川大学工学部長谷川修一教授が四国の地盤 88 箇所 65 番-2、で写真 3、4 の資料のように詳しく紹介しています。</p> <p>現在、道路から 20m ほど上がったところに写真 1 のような祠があります。</p>								
得られる教訓	竜にまつわる話として土石流災害の発生を後世に伝承し、自然への畏敬の念を忘れぬことを教えています。								
教訓分類	被害防止	準備	災害対応	復旧・復興	自助	共助	公助	ハード	ソフト
時代	江戸時代以前	江戸時代	明治・大正	昭和 30 年代まで	昭和 60 年代まで	平成以降			

整理番号	愛土 4	谷川の地すべりダム群							
災害種別	水害・治水	地震・津波	土砂災害			渇水・利水			
場 所	愛媛県西条市								
見所・アクセス	<p>谷川は急峻なV字谷を形成しており、川来須、黒代、下津池付近に遷急点があります。この3ヶ所ではいずれも地すべり地形の末端が河床まで達しています。地すべり地形の上流では、河床の幅が急に拡大した谷底平野が形成されています。</p> <p>J R 西条駅から南へ約10km行った辺りで見ることができます。</p>								
写真・図	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真 1</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真 2</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真 3</p> </div> </div>								
解説文	<p>愛媛県西条市加茂川支流の谷川は川幅が約20mの急峻なV字谷を形成しています。川来須、黒代および下津池付近に遷急点があり、その上流は局所的に河床勾配が緩やかになっています。下津池地すべりの堰き止め跡にはレジャー施設があり、谷川の地すべりダム群があります。</p> <p>詳しくは香川大学工学部長谷川修一教授が社団法人四国建設弘済会平成22年2月発行の四国の地盤88箇所66番-3の中で、写真2、3の資料のように紹介されています。</p>								
得られる教訓	西条市加茂川支流の谷川には、地すべりダム群があることを教えています。								
教訓分類	被害防止	準備	災害対応	復旧・復興	自助	共助	公助	ハード	ソフト
時代	江戸時代以前	江戸時代	明治・大正	昭和30年代まで	昭和60年代まで	平成以降			

整理番号	愛土5	別子銅山遭難流亡者碑		
災害種別	水害・治水	地震・津波	土砂災害	渇水・利水
場 所	愛媛県新居浜市山根町			
見所・アクセス	吉野川の支流銅山川の最上流に位置している別子銅山で明治 32 年の大雨による土砂災害により、死者 513 人にのぼる大水害が発生しました。その災害で亡くなった方を供養する碑が、新居浜市山根町にある端応寺の西側、100m の山側にある住友金属鉱山墓地にあります。			
写真・図	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真 1</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真 2</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真 3</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真 4</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真 5</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真 6</p> </div> </div>			
解説文	<p>新居浜市山根町にある端応寺の西側、約 100m の山側にある住友金属鉱山墓地に写真の別子銅山遭難流亡者碑（写真 1）があります。</p> <p>この碑は、吉野川の支流銅山川の最上流に位置している別子銅山で明治 32 年の大雨による土砂災害により、死者 513 人にのぼる大水害が発生し、その亡くなった方を供養する碑であります。</p> <p>四国防災八十八話第 70 話の中で「時は明治 32 年(1899)、所は愛媛県の別子山村（現在の新居浜市別子山村付近）でのことです。別子山村には、世界でも有数の銅山があり、多くの人が働いていました。掘り出した銅を含む鉱石を溶かして銅を作る（製錬）過程では、有毒な亜硫酸ガスが発生します。そのため近くの山々の木々は枯れ、あたり一面はげ山が広がっていました。山が荒れてしまったため、人々は大雨が降ったら鉄砲水が出てひどいことになるかと口々に言っていた。その不安が的中する日を迎えました。その日は朝から降り続いた豪雨が夜になって止むことなく、ますます激しくなりました。はげ山となり保水機能の乏しい山肌を滝のように雨水が流れ、あちこちで山肌が崩れ、恐ろしい土砂流となって村々を襲っていききました。・・・」と紹介されています。</p> <p>また四国災害アーカイブスでは、「明治 32 年（1899）8 月 28 日、台風により、別子銅山では日降水量が 325 ミリとなり、特に午後 8 時 20 分～9 時までの 40 分間に極めて強い集中豪雨があった。このため、各所で土石流が発生し、見花谷及び小足谷の従業員住宅など別子銅山の各施設が崩壊、流失した。土石流が多発した理由として、薪炭材利用のための樹木の切り倒しや製錬による煙害などにより周辺山地がはげ山になっていたことがあげられる。被害は死者 513 人、負傷者 28 人、家屋の全壊・流失 122 戸、半壊 37 戸に及んだ。（「別子銅山」等による）」とあります。</p> <p>（次ページへ続く） →</p>			

	<p>(前ページより続く) →</p> <p>さらに写真 2、3、4、5 には、足谷川流域の見花谷・両見谷・風呂屋谷等では山崩れが発生した場所の現地調査写真(写真 2~5)を掲載しています。</p> <p>現在の別子銅山土石流発生現場の様子を 2007 年 10 月 24 日撮影した写真 6 に示します。</p>
--	---

得られる 教訓	開発で荒廃した山は、保水機能の乏しく土砂流を発生させ、大きな土砂災害を引き起こすことを教えています。								
教訓分類	被害防止	準備	災害対応	復旧・復興	自助	共助	公助	ハード	ソフト
時代	江戸時代以前	江戸時代	明治・大正	昭和 30 年代まで	昭和 60 年代まで	平成以降			